
日本ミルトン協会 会報

Newsletter of the Milton Association of Japan

Web 版 Vol. 12 (2020)

「困難の年」を迎えて

倉恒 澄子

日本ミルトン協会の研究大会が開催される縁で、毎年 12 月に青山学院大学に伺うことが多い。この時期には構内に見事なクリスマス・ツリーが飾られている。かつて日本ミルトン・センター時代、同志社女子大学でも校門を入ると美しいクリスマス・ツリーが迎えてくれた。日本では季節の風物詩と化しがちなツリーだが、やはり商業施設を離れての姿には静謐な佇まいがある。一方、そんな静謐さを離れても求められる意義もあるようである。北欧を訪れた際、陰鬱な冬を乗り切るには華やかなクリスマスの飾りつけが不可欠という説を聞いた。アルコール依存症軽減の狙いもあるとか。人の気持ちを温かく癒すのならば、それも一つの価値であろう。

クリスマス・ツリーという存在自体が、レヴィ=ストロースなども語るように、さまざまに異なる時代、文化が交錯して「シンクレティズム的解決」として登場したものであるが、ここで少しリンゴに目を向けてみたい。飾りつけを施したツリーの最初期の記録は 1419 年、ドイツにおいてのことで、当時からリンゴは飾られていたという（若林ひとみ『クリスマスの文化史』）。その後ガラス加工術の発展とともにガラス・ボールに置き換わることが増えたが、この飾りがアダムとエバの食したリンゴを想起させることに変わりはない。とはいえ、墮罪の源になった果実の詳細について「創世記」には記述がない。私事になるが、かつて英文学の授業を受けていた際にこの果実をめぐる話題となり、墮罪後に二人が腰を覆うのに使ったイチジク説もあるし、また桃もありうる、なぜなら「桃」はラテン語で *persicum malum*（ペルシアのリンゴ）だ、などと教わった。エデンで蛇が誘うのならば、柔らかく香り高い桃はいっそう効果的かもしれない。厳密には *malum* を、桃に限らず果実の総称として解することもできるのだろう。

ともあれこれらはどれも古くから人が親しんできた果実である。伝承においても、リンゴならば、ギリシア神話において不和の女神エリスが投じてトロイア戦争の遠因となった、あのリンゴが名高い。これも災いを招く果実となった。一方桃は、中国や日本では魔除けの役割を担ってきた。『古事記』においては黄泉比良坂で伊邪那岐が追っ手に

対して、傍らにあった桃の木の実を投げることによって辛くも難を逃れえた。悪鬼退治の桃太郎譚も連想される。

リンゴであるにせよ桃であるにせよ、それを食べることによって人類の始祖は、退治される側、楽園から追われる存在となった。近年の環境保護をめぐる言説においてしばしば、人間こそが環境破壊の主要因、癌化して異常増殖する、排除されねばならない存在だと自嘲的にみる向きがあるが、まさにそれを先取りした構図である。

. . . . Lest therefore his now bolder hand
Reach also of the tree of life, and eat,
And live for ever, dream at least to live
For ever, to remove him I decree,
And send him from the garden forth to till
The ground whence he was taken, fitter soil. (*Paradise Lost*, 11. 93-98)

聖書でも楽園追放の理由は、永遠の生を人間が勝手に得ることの阻止である。

And the LORD God said, Behold, the man is become as one of us, to know good and evil: and now, lest he put forth his hand, and take also of the tree of life, and eat, and live for ever: (KJV, Genesis. 3.22)

ただ安易な永遠の生は得られなかったが、知識は確かに得たのである。この会報が出るころにはある程度収束の見込みがついていることを切望するが、昨年末から新型コロナウイルス COVID-19 が予想外の猛威を振るっている。罹患した方々には心からお見舞いを申し上げ、医療、科学技術界を始め人々の生活の維持に奮戦している多方面の尽力にはただただ感謝したい。急速かつ広範囲の流行、それに付随して次々と打ち出される予防策や対抗策の数々は、世界中の政治経済にも大きく影響を及ぼし、社会を変貌させている。かつて英女王は戴冠 40 周年記念スピーチで、多難だった一年を“annus horribilis”ともじったが、その呼称は今年を指すことになるのかもしれない。むしろ今年で終わらせたい。現状、一般人に可能な貢献策はまず外出自粛とあって、かつては忌避されがちだった引きこもり状態に積極的な価値が付されている。生活物資の確保・工夫の他に、この状態を意義深くするべくさまざまな試みがなされている。休館した各種施設に代わって個別に享受できるような舞台、音楽、運動、学習プログラムなどが急遽

電子的に展開されているのも、今後の学習形態変革の後押しとなるだろう。鬱やアルコール依存症にクリスマスの装飾が呼ぶ意識の変換が奏功するものならば、それに倣って、知恵と知識をもって（ただし“hand in hand”の直接接触はしばし我慢して）理性的な道を歩んでゆきたい。

日本ミルトン協会 第 15 回研究会 報告

日時 2019 年 7 月 6 日 (土) 15 時 00 分～17 時 00 分

場所 神戸市外国語大学 大学共用施設 UNITY

発表

1. 花田 太平：サムソンはなぜ働くのか？—ミルトンと初期近代政治神学
2. 川崎 和基：“Liberty of Conscience”の戦い—ミルトンとその擁護者たち

(出席者 16 名)

日本ミルトン協会 第 10 回研究大会および 2019 年度総会 報告

日時 2019 年 12 月 7 日 (土) 12 時 40 分～18 時 00 分

場所 青山学院大学青山キャンパス 17 号館 17507 教室

発表

1. 堀内 直美：続 *Paradise Lost* の神学——16–17 世紀の自由意志
2. 松村 祐香里：Pureness よりも Fairness を——入植初期のニューイングランドにおける教会統治の理念

ミニ講義

野呂 有子：新井明先生、毬藻の会、そして *Early English Books Online*
——私とミルトン研究

シンポジウム：ミルトンと書物

オーガナイザー 渡辺 賢一郎

1. 圓月 勝博：公共図書館の中のミルトンのパラテキスト
——『1645 年詩集』に貼り付けられた 1647 年の書物へのオード
2. 川島 伸博：Milton Never “Ate” ——『楽園喪失』、1667 年の「ブランク」・ヴァース
3. 渡辺 賢一郎：18 世紀末の「楽園回復」——周辺からの読み替え

総会議事録

1. 活動報告

笹川事務局長より 2018 年度の活動について報告がなされた。

2. 2018 年度会計報告および会計監査報告

金崎事務局委員から 2018 年度会計報告（10 頁）が報告され、江藤あさじ・倉恒澄子 両会計監査委員により監査の結果報告の通りで間違いがないことが報告された。総会出席の会員により了承された。

3. 2019 年度予算審議

金崎事務局委員から 2019 年度予算（10 頁）が提案され、総会出席の会員により了承された。

4. 役員改選について

次期会長として富樫剛氏が承認された。富樫氏により任命を受けた以下の役員もあわせて承認された。

事務局長：笹川渉 事務局（編集）：松村祐香里 事務局（会計）：花田太平
企画委員：江藤あさじ、桂山康司、川島伸博、西川健誠、水野眞理、渡辺賢一郎
HP 委員：川崎和基、菅野智城

会計監査：桶田由衣、金崎八重 （敬称略）

5. 論集刊行について

富樫委員より以下の提案がなされ、全て承認された。

- ・「日本ミルトン協会編『ミルトン入門』（案）」が提案され、Companion 的な論集の作成を進めること
- ・刊行費用は繰越金を使うこと
- ・編集委員会を設置し、編集委員長は次期会長とすること
- ・編集委員会の構成は編集委員長に一任すること
- ・2020 年 7 月までに執筆項目・執筆者を決定し、3 年以内の完成を目指すこと

6. 2020 年度行事予定について

下記の通り提案され、了承された。

第 16 回研究会：7 月 11 日 龍谷大学→後日、同志社大学とすることとした。

第 11 回大会および総会：12 月 5 日 青山学院大学→後日、日程をあらためて協議することとした。

（出席者 37 名）

日本ミルトン協会会員業績（2019年度）

新井明『新井明選集第3巻 聖書の学び』 リトン（2019.9）。

岡田善明「*Paradise Lost*へのバロック芸術の影響をめぐって——「内面のバロック」的描写の考察——」東京英米文学研究会『紀要』第14号（2019.9）26-45頁。

川島伸博「ファーストからセカンドへ——ミルトンによるシェイクスピア非／受容——」『龍谷紀要』第41巻第2号（2020.3）27-38頁。

里麻静夫「『国事詩集』を読む——第1巻「文芸」部門に於ける愚人像（2）——」中央大学英米文学会『英語英米文学』第60集（2020.2）1-25頁。

佐野弘子「ミルトンの時間意識」『十七世紀英文学における生と死』 十七世英文学会編 金星堂（2019.9）135-61頁。

富樫剛「（魂の）生か、死か、それが問題だ——16-17世紀の予定神学とミルトンの『失樂園』——」『十七世紀英文学における生と死』 十七世英文学会編 金星堂（2019.9）187-213頁。

——「あなたのなかに神がいる——17世紀イングランドにおけるヤーコプ・ベーメ」『フェリス女学院大学文学部紀要』第55巻（2020.3）91-110頁。

中山理「十七世紀イギリスにおける〈死〉の意識革命——ミルトンの「リシダス」に見るスピリチュアリティ」『十七世紀英文学における生と死』 十七世英文学会編 金星堂（2019.9）163-85頁。

野呂有子監修、野呂有子・田中洋子・大濱えり・山田恵摩・上滝圭介・野村宗央・金子千香・天海希菜、他三名編『*Paradise Lost* 英語原典テキスト——1667年版、1668年版、1674年版、コロンビア版——および新井明訳『楽園の喪失』（部分）との比較対照版テキスト』（*A Comparative Study on the Texts of John Milton's Paradise Lost: 1667 version, 1668 version, 1674 version, Columbia version and A Partial text of Akira Arai's Rakuen-no-Soushitsu, A Japanese Translation of Paradise Lost*）野呂有子「序論」『野呂有子の研究ウェブサイト』（<http://www.milton-noro-lewis.com/digitalbook.html>）（2020.2）

——『*Paradise Regained & Samson Agonistes* 英語原典テキスト——1671年版、1680年版、コロンビア版——および新井明訳『楽園の回復 / 闘技士サムソン』（部分）との比較対照版テキスト』（*A Comparative Study on the Texts of John Milton's Paradise Regained & Samson Agonistes—1671 version, 1680 version, Columbia version—and A*

事務局だより

2019年7月6日

第25回運営委員会（出席者8名）、第15回研究会

以下、運営委員会議事録より重要箇所を掲載。

1. 2018年度決算について

金崎事務局委員より報告、承認された。

2. 2019年度予算案について

金崎事務局委員より以下の提案を含め、全て承認された。

- ・当協会のホームページに不正アクセスがあり、その対策としてセキュリティソフトを導入するためにHP管理費30,000円を計上
- ・故箭川修先生の弔電代を雑費として計上

3. 次期会長の推薦について

西川会長の任期が満了することに伴い、次期会長として富樫委員が推薦された。委員本人の承諾を得て、満場一致で承認された。富樫委員が次期事務局および運営委員を選出し、次回運営委員会で報告することを確認した。

4. 繰越金についての扱いについて

笹川事務局長より繰越金の使途として論集の発行が提案された。次回委員会まで継続審議とすることとした。

5. 研究会・大会中止についての連絡方法について

2018年7月7日に予定していた研究会が、豪雨とそれに伴う二次災害や交通機関への混乱から中止としたことを踏まえ、自然災害等で研究会または研究大会の開催が危ぶまれる場合や中止とする場合、メーリングリストを使い、研究会・研究大会前日の朝までに実施の有無について連絡を行うこととした。また、ホームページでも前日朝までにその旨を記載することとした。

6. 12月研究大会のプログラムについて

以下の人選で行うことが報告された。

研究発表…堀内直美氏、松村祐香里氏

ミニ講義…野呂有子氏

シンポジウム…渡辺賢一郎氏（オーガナイザー）、圓月勝博氏、川島伸博氏

7. その他

日本ピューリタニズム学会、17世紀英文学会のホームページと相互にリンクを貼り、事務局を通じて研究会および大会の案内を告知するよう依頼することが提案され承認された。

2019年12月7日

第26回運営委員会（出席者10名）、第10回研究大会

以下、運営委員会議事録より重要箇所を掲載。

1. 入会者と退会者について（9頁）

2. 2018年度会計決算について

金崎事務局委員より、会計監査委員により問題なしとされたことが報告された。

3. 2019年度予算案について

金崎事務局委員より説明がなされ承認された。

4. 次期会長候補の推薦について

富樫剛氏を次期会長候補として総会で推薦することを承認した。

5. 2020年度～2022年度委員の選出について

富樫委員（次期会長候補）より上記総会にて承認された案が提案され、了承された。

6. 論集刊行について

上記総会にて承認された案が提案され、了承された。

7. 2020年度活動予定について

上記総会にて承認された活動案を作成した。シンポジウムは金崎八重氏にオーガナイザーを依頼。後日テーマを「ミルトンと音楽——17世紀から20世紀まで——」とし、佐野弘子氏と倉恒澄子氏をパネリストとすることが報告された。

8. 『会報』第12号巻頭言執筆者について

倉恒澄子氏が担当することを決定した。

名簿変更

	氏名	〒	住所	電話・メール	所属
新規	天海 希菜				日本大学大学院
変更	大塚あゆみ				(明治大学・ 日本体育大学・ 北里大学)
変更	勝野 由美子				
新規	加藤 遼子				日本大学
新規	上滝 圭介				埼玉医科大学
退会	甲元 洋子				
変更	菅原 隆志				
新規	野村 宗央				松山大学
変更	花田 太平				
新規	村松 瞳子				(日本大学 文理学部職員)

* WEB 掲載版には住所と電話番号・メールの情報は記載いたしません。

日本ミルトン協会 2018年度会計決算報告 および 2019年度予算案

自2018年4月1日
至2019年3月31日




	摘要	2018年度予算案	2018年度決算	2019年度予算案
収入	会費	200,000	208,000	200,000
	前年度繰越金	2,922,031	2,922,031	3,046,893
	雑収入	0	30	0
	計	3,122,031	3,130,061	3,246,893
支出	会報関係費	70,000	34,638	70,000
	印刷費	0	0	0
	HP管理費	14,000	13,026	30,000
	会場関連費	50,000	31,750	50,000
	若手支援費	30,000	0	30,000
	雑費	1,000	3,754	1,000
	次年度繰越	2,957,031	3,046,893	3,065,893
	計	3,122,031	3,130,061	3,246,893

基金会計

ゆうちょ銀行	1,500,000
--------	-----------

上記の通り間違いありません。

2019年12月7日

会計 金崎 八重 
 会計監査 倉恒 澄子 
 江藤 あまじ 

日本ミルトン協会規約

1. 名称 本会は、日本ミルトン協会と称する。英語表記は The Milton Association of Japan とする。
2. 目的 本会は、日本ミルトン・センター（The Milton Center of Japan, 1975年7月18日－2008年3月31日）の事業と組織を継承し、ミルトン研究を促進することを目的とする。
3. 事業 以上の目的を達成するために、次の事業を行なう。
 - (1) 研究大会
 - (2) 研究会
 - (3) 広報活動
 - (4) その他
4. 組織 本会は、本会の主旨に賛同する者をもって組織する。
5. 役員 本会に以下の役員を置く。役員を選出については付則に定める。

会長 1 名	事務局長 1 名
事務局委員 2 名	企画委員 6 名
ホームページ委員 2 名	会計監査委員 2 名
6. 機関
 - (1) 総会
本協会の最高決議機関とする。議長は会長が務める。
 - (2) 運営委員会
運営委員会は、本協会の運営に関する事項を審議する。委員長は会長が務める。運営委員会は、以下の役員によって構成する。

会長	事務局長	事務局委員
企画委員	ホームページ委員	
 - (3) 事務局
事務局は、会計、機関誌の発行、その他の事務を担当する。
 - (4) 企画委員会
企画委員会は、研究大会・研究会等の企画を行う。
 - (5) ホームページ委員会
ホームページ委員会は、本協会のホームページの管理・運営にあたる。
 - (6) 顧問をおくことができる。
7. 会計
 - (1) 会費

会員の会費は年額 5,000 円とする。ただし、学生会員の会費は 1,000 円とする。

(2) 会計監査

会計監査は、原則として年 1 回、会計監査委員が行い、運営委員会および総会に報告する。

(3) 若手支援

学生会員が研究発表を行う場合、1 万円を上限に自宅あるいは在籍校から会場までの実費交通費を支給する。

8. 規約の改正 本規約の改正は、総会における出席者の過半数の賛成によって実施する。

9. 設立年月日 本会の設立年月日は 2008 年 4 月 1 日とする。

10. この規約は、2008 年 4 月 1 日から施行する。

付則 役員を選出ならびに所在地

- (1) 会長は、運営委員会の推薦に従って、総会において選出する。任期は 3 年とし、再任を認めない。
- (2) 会長は、運営委員会に諮った上で、役員を任命する。
- (3) 事務局長は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、原則として最長 2 期とする。事務局委員は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、原則として最長 2 期とする。
- (4) 企画委員は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、原則として最長 2 期とする。
- (5) ホームページ委員は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、再任を妨げない。
- (6) 会計監査委員は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、再任を認めない。
- (7) 本会の所在地は次のとおりとする。

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25

青山学院大学文学部 笹川渉研究室

郵便局の振替口座 00990—5—306177 の口座代表者は事務局長笹川渉が担当する。

2008 年 4 月 1 日

2015 年 12 月 5 日改正

2012 年 4 月 1 日改正

2017 年 12 月 9 日改正

2014 年 4 月 1 日改正

日本ミルトン協会 役員および委員

(2020年4月1日現在)

顧問 新井 明 聖学院大学

会長 富樫 剛 フェリス女学院大学

事務局長 笹川 涉 青山学院大学

事務局委員 松村 祐香里 金沢学院大学
花田 太平 麗澤大学

企画委員 江藤 あさじ (同志社女子大学)
桂山 康司 京都大学
川島 伸博 龍谷大学
西川 健誠 神戸市外国語大学
水野 眞理 京都大学
渡辺 賢一郎 (川村学園女子大学)

ホームページ委員 川崎 和基 日本大学
菅野 智城 鶴岡工業高等専門学校

会計監査委員 金崎 八重 近畿大学
桶田 由衣 日本大学

* () は非常勤講師

日本ミルトン協会 会報
Newsletter of the Milton Association of Japan
第 12 号

2020 年 4 月 1 日発行

編集者兼発行者 日本ミルトン協会
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25
青山学院大学文学部
笹川渉研究室
振替番号 00990—5—306177